2023年2月22日版

第 13 回定時総会

令和 5 年 3 月 22 日(水)

会場：全水道会館 会議室（東京都文京区本郷 1-4-1）

一般社団法人　日本ロボット学会
The Robotics Society of Japan

〒113-0033　東京都文京区本郷 2-19-7
ブルービルディング　2 階
TEL: 03-3812-7594　　FAX: 03-3812-4628
URL: https://www.rsj.or.jp/

第 13 回定時総会資料

日　時　：　令和 5 年 3 月 22 日(水)　　13 時 00 分～14 時 30 分
場　所　：　全水道会館 会議室（東京都文京区本郷 1-4-1）

総会次第：

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 令和 4 年度事業報告　　【第 1 号議案】
5. 令和 4 年度決算報告　　【第 2 号議案】
6. 令和 5 年度事業計画　　【報告資料 1】
7. 令和 5 年度予算計画　　【報告資料 2】
8. 令和 5 年度役員の件　　【第 3 号議案】
9. 名誉会員推挙の件　　【第 4 号議案】
10. 定款変更の件　　【第 5 号議案】
11. 閉会の辞

※1．「運営報告会」と「定時総会」について：
運営報告会：
毎年 9 月の学術講演会会期中に運営報告会を実施しております．日頃の当学会の活動状況をご理解・ご評価頂くために，当該年度の活動進捗状況と次年度の活動方針の報告および，質疑応答を行います．審議・承認は行いません．次項の定時総会とは別に審議・承認を必要とする議事が生じた場合は臨時総会を併催致します．
定時総会：
毎年 3 月下旬に定時総会を実施しております．議決権を持つ代議員に，当該年度事業報告，当該年度決算報告，次期役員，定款改定等の議事につき審議・承認頂きます．あわせて，次年度事業計画，次年度予算計画のご報告および質疑応答を行います．
なお，代議員以外の正会員も定時総会および運営報告会に自由に参加し，議長の了解を得て意見を述べることが出来ますが，議事の表決には加わることは出来ません．

※2．事業報告及び事業計画の小タイトルについて：
例）Ⅰ．シンポジウム（継続事業 1）[担当：事業理事]
【Ⅰ.】部分は通し番号です．
【シンポジウム】部分は各項目のタイトル（内容）です．
【(継続事業 1)】部分は事業区分です．継続事業 1～6 は内閣府の管理対象である公益事業を表します．その他事業 1~2 は，内閣府管理外の非公益事業を表します．それ以外は内閣府管理外で事業以外の運営に関わる業務報告となります．一般社団法人への移行に伴い，規定の期間，内閣府に対し，公益事業の推進状況の報告義務があり，上記の各事業区分ごとに事業報告をすることになっております．
【[担当：事業理事]】部分は各項目の担当理事です．

【第１号議案】

令和４年度　事業報告

（自　令和４年１月１日　至　令和４年12月31日）

Ⅰ．シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事／学術講演会理事]

１．ロボット教育セミナー

「ロボット教育セミナーからくり工作教室（からくりBOXを作ろう）」を2022年11月26日(土)に東芝未来科学館にて開催した．小学生を対象とし，20名の参加があった．

２．学術講演会　オープンフォーラム

第40回学術講演会（東京大学，2022年９月５日(月)～９日(金)）にて，オープンフォーラム（無料・一般公開）を15件企画．

Ⅱ．学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]（定款第４条２号）

学会誌第40巻１号～10号を発行し，会員に配布した．各号の特集テーマは次のとおりである．

第40巻１号　〈ヒト中心の〉未来情報社会再考
第40巻２号　海外でのロボティクス研究活動
第40巻３号　ロボットへの応用に向けたAIの品質
第40巻４号　索状ロボットの昨日・今日・明日
第40巻５号　把持と操りのためのロボットハンド最前線
第40巻６号　福島ロボットテストフィールド
第40巻７号　デジタルツインと人・ロボット協調
第40巻８号　触覚と疼痛，意識と無意識，知覚と認知―遠隔触診の実現を通して探る新たな知性―
第40巻９号　予測に基づくロボットの動作学習
第40巻10号　ベイズ推論の新体系と未来

学生編集委員会では，引き続きコロナ禍という制限がある中で，会社訪問や学術講演会レポートなどの活動を行った．

一般投稿論文については，年間の論文投稿件数は107件（2021年度101件，2020年度132件），判定結果は採録可50%（2021年度61%，2020年度48%）であった．判定までの期間は平均116日（2021年度128日），最短54日，最長210日で，掲載までの期間は平均307日（2021年度330日）であった．なお，評価項目の割合は，新規性14%（2021年度33%），有用性67%（同49%），提案性19%（同18%）となっている．

学術講演会と連動したレター同時投稿について，2022年度の投稿件数は76件（2021年度は66件）だった．制度の定着が進んでいると考えられるが，短期間に多くの論文が投稿されることから事務局および論文査読小委員会の負担が大きいため，ScholarOne上でのシステム改善などで負担軽減を検討する．

最後に，広告の年度集計結果に関しては，件数は48件（2021年度52件），金額は5,107,388円（2020年度4,596,196円）だった．昨年度からは回復したが，コロナ前の水準には達していない．

III. 欧文誌（継続事業 3）[担当：欧文誌理事]（定款第４条２号）

2022 年度より倉林大輔教授（東京工業大学）が新たに Editor in Chief に就任し，新体制の下で Advanced Robotics の安定した発展を維持させつつ，時流に即した新しい取り組みを行っている．

１．欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

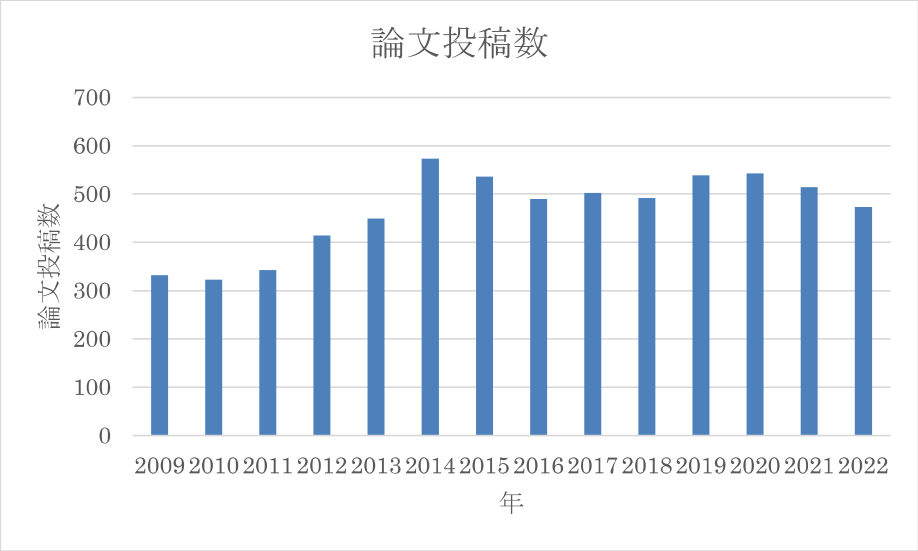
Vol.36を発行した．各号の詳細は以下の通りである．

Vol./No.	Online Pub. date	Theme of Issues
36/1-2	Jan	Symbol Emergence in Robotics and Cognitive Systems I (6 papers)
36/3	Feb	Regular Issue (5 papers)
36/4	Feb	Regular Issue (4 papers)
36/5-6	Mar	Symbol Emergence in Robotics and Cognitive Systems II (7 papers)
36/7	Apr	Regular Issue (3 papers)
36/8	Apr	Regular Issue (3 papers)
36/8	Apr	Regular Issue (3 papers)
36/9	May	Regular Issue (3 papers)
36/10	May	Regular Issue (3 papers)
36/11	Jun	Software Framework for Robot System Integration (5 papers)
36/12	Jun	Regular Issue (2 papers)
36/13	Jul	Adaptive Motion of Animals and Machines (5 papers)
36/14	Jul	Regular Issue (2 papers)
36/15	Aug	Regular Issue (3 papers)
36/16	Aug	Regular Issue (4 papers)
36/17-18	Sep	Service Robot Technology - selected papers from WRS2020 (Part I) (11 papers)
36/19	Oct	Regular Issue (4 papers)
36/20	Oct	Regular Issue (4 papers)
36/21	Nov	Disaster Response Robot - selected papers from WRS2020 (4 papers)
36/22	Nov	Industrial Robot Technology - selected papers from WRS2020 (3 papers)
36/23	Dec	Service Robot Technology - selected papers from WRS2020 (Part II) (6 papers)
36/24	Dec	Regular Issue (4 papers)

２．論文の投稿，査読の状況

2022年における年間論文投稿総数は473件（新規投稿論文・329件，再投稿論文・144件）であった（下図参照）．数年にわたって，論文投稿総数は500件程度で安定しているが，昨年に比べて微減となっている．近年，Editorリジェクトを積極的に実施することで，質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っており，また全投稿論文に対してCrossCheck™ softwareが活用され，剽窃の事前チェックを行っている．

なお，2022年度の投稿から第一回目のディシジョンまでの期間は平均で38.29日であった（2021年度は43.1日，2020年度は53.47, 2019年度は62.18日, 2018年度は76.03日, 2017年度は68.56日, 2016年度は61.57日, 2015年度は66.7日）．これまで90日を目標にしてきているが，SchalorOneの導入の効果もあり目標を7年以上連続で達成している．多くの投稿論文は２回目の査読で採録の可否が決まるため，投稿から最終ディシジョンまでの平均日数は72.04日となっている．2022年度の投稿論文の採択率は，32.52%であった．今後も査読期間の短縮に努めていく．

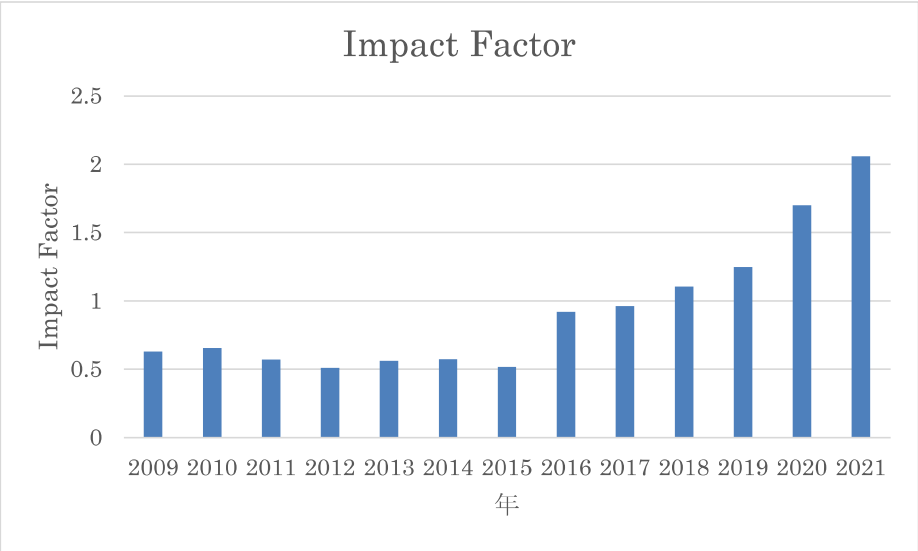


3．企画/編集/発行作業

昨年度に続きポストコロナ社会でのロボットの役割を議論する特集号を組むなど，時代に即した内容を計画していくとともに，農業ロボット等の新しい分野や制御系分野の特集号等を企画し充実を図っていく．

4．国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information(ISI)社の Citation Index（インパクトファクタ）の推移を以下に示す．2016年にてインパクトファクタが0.920に大幅に上昇し，その後の継続的に上昇し2018年においては1.104と，初めて1.0を上回る値を達成，2020年は1.699に大きく向上した．さらに，2021年のインパクトファクタは2.057となり初めて2を超える値となった．今後もTaylor & Francis社との連携を通して，戦略的に上昇させることを検討する一方，インパクトファクタだけでは表せない雑誌の国際的な評価をどのように上げていくかを検討していく必要がある．また，IROSでのBest Paper Awardsの表彰も検討しており，In-personでの会議が復活してきていることから実現に向けて動いていく予定である．



5．共同事業者であるTaylor & Francis 社との契約内容の更新・交渉

以下のような契約内容（2021 年度の契約内容と同じ）で更新を行った．

2022 年（Vol. 36）年間発行数： 24 号

1．会員全員の電子購読料金 15,000 ユーロ／年

2．RSJ へ支払われる編集料 20,000 ユーロ／年

3．AR ベストペーパ賞金 1,000 ユーロ／年

採択された投稿論文は，掲載号発行前にTaylor and Francisにより電子出版され，閲覧・引用が可能となっている．採択決定から電子出版までは，早ければ1ヶ月以内で対応可能である．

6. その他

第40回日本ロボット学会学術講演会において，学会誌理事，国際理事と共同で「研究成果を学術論文としてまとめる意義とその技術」に関するオープンフォーラムを開催した．また，昨年に引き続きロボティクスシンポジアのプログラム委員会と連携し，ロボティクスシンポジアからの同時投稿論文を受け付けた．

Ⅳ．調査・研究（継続事業 4）[担当：企画・広報理事]（定款第 4 条 3 号）

前年度から継続して，以下の調査・研究専門委員会活動を実施した．

（1）研究専門委員会

委員会名	委員長	発足	種別
介護ロボット研究専門委員会	柴田智広	2022 年 4 月	I 種
若手・学生のためのキャリアパス開拓研究専門委員会	槇田諭	2021 年 4 月	I 種
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020 年 4 月	I 種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅久	2020 年 4 月	I 種
遊びとロボット研究専門委員会	望山洋	2017 年 5 月	I 種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017 年 4 月	I 種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017 年 4 月	I 種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017 年 4 月	II 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014 年 8 月	II 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	I 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	荒田純平	2008 年 4 月	I 種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野敦	2008 年 4 月	I 種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007 年 1 月	II 種

※ 開かれた知能研究専門委員会（委員長：下田真吾）は 2022 年 8 月末にて活動を終了した．

（2）調査研究委員会

委員会名	委員長	発足
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020 年 1 月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見卓	2015 年 1 月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013 年 5 月

※ 広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会（委員長：淺間一），新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会（委員長：本田幸夫）は 2022 年 4 月末にて活動を終了した．

（３）技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015 年 4 月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013 年 10 月

（４）研究協議会

研究協議会を開催し、各研究専門委員会の活動報告を行った。

Ⅴ．表彰（継続事業 5）[担当：企画・広報理事]（定款第４条４号）

2022 年 9 月第 40 回学術講演会において，学会誌論文賞 4 件，Advanced Robotics Paper Awards 3 件，実用化技術賞 2 件，優秀研究・技術賞 5 件，優秀講演賞 5 件，若手講演賞(新設) 4 件，研究奨励賞 7 件，ロボティクスシンポジア研究奨励賞 2 件，ロボティクスシンポジア優秀研究・技術賞 1 件，International Session Best Presentation Award 3 件，ロボット活用社会貢献賞 2 件，功労賞 1 件の表彰を行う．また，2022 年 3 月末に優秀学生賞を 36 人に授与した．

１．学会誌論文賞

（１）非平面マルチロータヘリコプタの姿勢・位置独立制御

（日本ロボット学会誌 第 38 巻 第 2 号，pp.192-198）

長谷川直輝(キヤノン（株）)，鈴木 智(千葉大学)，河村 隆(信州大学)，清水 拓(（株）IHI)，上野 光(（株）IHI)，村上弘記(（株）IHI)

（２）自走式墨出しロボットのための高効率作業計画

（日本ロボット学会誌 第 39 巻 第 1 号，pp.87-97）

鶴田壮広(（株）竹中工務店)，宮口幹太(（株）竹中工務店)，藤井 中(（株）竹中工務店)

（３）非平行性と粘弾性を両有する劣駆動関節機構を用いた非把持マニピュレーション

（日本ロボット学会誌 第 39 巻 第 6 号，pp.533-544）

栗田泰輔(大阪大学)，東森 充(大阪大学)

（４）平行六面体構造を用いた 2 軸チルトフレームを有するチルト型クアッドロータ

（日本ロボット学会誌 第 39 巻 第 9 号，pp.845-853）

坂口聡範(大阪大学)，滝本 隆(北九州工業高等専門学校)，潮 俊光(大阪大学)

２．Advanced Robotics Paper Awards

2-1．Advanced Robotics Best Paper Award

（１）Online generation and control of quasi-static multi-contact motion by PWT Jacobian matrix with contact wrench estimation and joint load reduction

(Advanced Robotics Vol.35, No.1, pp.48-63)

平岡直樹(東京大学)，室岡雅樹(東京大学)，野田 晋太朗(東京大学)，岡田 慧(東京大学)，稲葉雅幸(東京大学)

2-2．Advanced Robotics Excellent Paper Award

（１）TAMS: development of a multipurpose three-arm aerial manipulator system

(Advanced Robotics Vol. 35 No. 1, pp. 31-47)

Hannibal Paul(立命館大学)，宮﨑 遼(立命館大学)，Robert Ladig(立命館大学)，下ノ村和弘(立命館大学)

（２）Spiral coil beneath fingertip enhances tactile sensation while tracing surface with small undulations

(Advanced Robotics Vol. 35 No. 5, pp. 295-307)

竹囲年延(弘前大学)，新関鉄矢(弘前大学)，安藤潤人(筑波大学)，望山 洋(筑波大学)，今西悦二郎(弘前大学)，藤本英雄(名古屋工業大学)

3．実用化技術賞．．．．受賞該当者無し．

（1）高い設置性と重量物処理能力を兼ね備えたティーチレス方式の物流向け直交型荷降ろしロボット．

小川昭人（（株）東芝），衛藤春菜（（株）東芝），中本秀一（（株）東芝），園浦隆史（（株）東芝），田中淳也（（株）東芝），青柳利明(東芝インフラシステムズ（株）），矢部洋祐(東芝インフラシステムズ（株）），石岡透暢(東芝インフラシステムズ(株)），助川　寛(東芝インフラシステムズ(株)），青木泰浩(東芝インフラシステムズ(株)）．

（2）ジャイロセンサーによる制振制御技術を搭載した産業用ロボット．

元吉正樹(セイコーエプソン（株）），平林友一(セイコーエプソン（株）），五十嵐克司(セイコーエプソン（株））．

4．優秀研究・技術賞．

（1）斎藤喬介(早稲田大学)，亀﨑允啓(早稲田大学／JST さきがけ)，濱田太郎(早稲田大学)，金田太智(早稲田大学)，平山三千昭(早稲田大学)，オン．ライアン(早稲田大学)，菅野重樹(早稲田大学)．

人共存型自律移動ロボットの統合的軌道計画システムの構築と実環境での長期間走行評価．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（2J3-03）．

（2）小島．航(東京農工大学)，和田正義(東京理科大学)．

前輪駆動車いすの安定性の理論的解析に基づく制御性向上に関する研究．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（1J3-05）．

（3）海藏寺丘晴(早稲田大学)，武部康隆(早稲田大学)，菅宮友莉奈(早稲田大学)，高西淳夫(早稲田大学／HRI)，石井裕之(早稲田大学／HRI)．

新生児蘇生法トレーニング・システムの開発―筋緊張変化を再現可能な新生児シミュレータの設計・製作―．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（1B1-03）．

（4）小山佳祐(大阪大学)，万．偉偉(大阪大学)，原田研介(大阪大学)．

触覚機能を内包する高速・高精度近接覚センサ―拡散・鏡面反射面の測距・測角と反射パラメータ推定―．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（2F1-02）．

（5）上出寛子(名古屋大学)，森川高行(名古屋大学)，董．芸(名古屋大学)．

日常生活におけるモビリティを測定する指標 QOML（Quality of Mobility Life）の提案．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（1A3-03）．

5．優秀講演賞．

（1）廣江奈生（九州大学）．

遠隔解剖システムにおけるツールエクスチェンジャーの開発．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（1B2-07）．

（2）田島怜奈（東京工業大学）．

保育所適合型見守り支援を可能にする疫学と現場観察双方からの事故状況分析．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（1J2-04）．

（3）和田大地（宇宙航空研究開発機構）．

深層強化学習（Proximal Policy Optimization）を用いた UAV の自律的な遷移飛行制御のシミュレーションによる検証．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（2I3-02）．

（4）松坂要佐（(株) MID アカデミックプロモーションズ）．

公平性と民主性を両立させた RoboCup 用競技シミュレーションシステムの開発．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（2H3-02）．

（5）小山．虎（山口大学）．

「発言権」に基づく対話システムのレベル分けの提案．

第 39 回日本ロボット学会学術講演会（1A3-01）．

6．若手講演賞

（1）杉山地塩（東京工業大学）

複数マイクロホンアレイの同期および3次元位置・姿勢推定の同時最適化の検討

第39回日本ロボット学会学術講演会（2D4-01）

（2）新井和樹（群馬大学）

フォーカスとシート光のミリ秒制御による高速ライトシート顕微鏡

第39回日本ロボット学会学術講演会（2K4-03）

（3）森 優也（筑波大学）

スナップシェル：パラレル機構による面状スナップモータ

第39回日本ロボット学会学術講演会（2J3-06）

（4）藤井康之（立命館大学）

シミュレーションと実環境実験による小型水上自律移動センシングデバイスの定点維持制御戦略評価

第39回日本ロボット学会学術講演会（1C3-03）

7．研究奨励賞

（1）松田匠未（明治大学）

長期広域海底探査を実現する自律型海中ロボットシステム

（2）南之園彩斗（芝浦工業大学）

静電ソフトアクチュエータを用いた柔らかなロボットの研究

（3）金田礼人（九州大学）

柔軟直動モータとロボットの研究

（4）三浦 智（東京工業大学）

脳活動を用いた医療・福祉支援ロボットの直感的な操作性に関する研究

（5）宮崎 遼（産業技術総合研究所）

水平推進システムを備えたマルチロータUAVの開発と空中作業への応用

（6）早川智洋（富山大学）

脚型モジュラーロボット群による大域的情報推定に基づく歩容生成

（7）髙橋知也（東北大学）

ヒモムシ吻構造に基づく方向操舵・伸縮を可能とする液体駆動式先端伸展機構の考案・実機具現化

8．ロボティクスシンポジア研究奨励賞

（1）挾間智久（大阪大学）

複数の目標の話題に誘導する対話のための話題戦略並列実行アーキテクチャ

第27回ロボティクスシンポジア（2C1）

（2）鈴木大和（東京大学）

移動と地形分類の不確実性に基づく探査ロボットの経路計画

第27回ロボティクスシンポジア（4B2）

9．ロボティクスシンポジア優秀研究・技術賞

（1）大石修士(産業技術総合研究所)，小出健司(産業技術総合研究所)，横塚将志(産業技術総合研究所)

実世界における4次元時空間注視計測

第27回ロボティクスシンポジア（3A2）

10. International Session Best Presentation Award

10-1. Winner

（1）Wendyam Eric Lionel Ilboudo (Nara Institute of Science and Technology)

Reformulating Multi-Domain Reinforcement Learning under a Pseudo Multi-Objective Reinforcement Learning framework

40th RSJ2022

10-2. Finalist

（1）Junbo Zhang (Osaka University)

A Spiral Classifier for Robust Pipette-Tip Attachment

40th RSJ2022

（2）Wendyam Eric Lionel Ilboudo (Nara Institute of Science and Technology)

Reformulating Multi-Domain Reinforcement Learning under a Pseudo Multi-Objective Reinforcement Learning framework

40th RSJ2022

（3）Keli Shen (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))

Understanding Complex Dance Motions Through Kinematic Motor Synergy

40th RSJ2022

11. ロボット活用社会貢献賞

（1）配膳ロボットの社会実装と普及への貢献

ソフトバンクロボティクス株式会社

（2）分身ロボットカフェ DAWN Ver.β を通した外出困難者の社会参画の具現化に対する貢献

株式会社オリィ研究所，川田テクノロジーズ株式会社

12. 功労賞

（1）Advanced Robotics の国際的評価向上への貢献

細田 耕（大阪大学）

13. 優秀学生賞

端井大貴（大阪大学 基礎工学部 知能システム学コース）

小畑一真（大阪大学 基礎工学部 知能システム学コース）

佐藤悠弥（大阪大学 工学部 応用理工学科 機械工学科目）

若林広悦（大阪工業大学 ロボティクス＆デザイン工学部 ロボット工学科）

髙橋卓馬（金沢大学 理工学域 フロンティア工学類）

前田椋也（岐阜大学 工学部 機械工学科）

髙橋晴菜（九州大学 工学部 機械航空工学科 機械工学コース）

松永夏己（九州大学 工学部 機械航空工学科 機械工学コース）

清水進（京都大学 工学部 物理工学科）

野村亮介（近畿大学 工学部 ロボティクス学科）

大西史弥（慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科）

藤井叡（工学院大学 工学部 機械システム工学科）

関根知晴（芝浦工業大学 工学部 電気工学科）

堀端脩平（千葉工業大学 先進工学部 未来ロボティクス学科）

下鳥晴己（千葉工業大学 先進工学部 未来ロボティクス学科）

寺山伊織（中央大学　理工学部　精密機械工学科）
河原歩夢（筑波大学 理工学群 工学システム学類）
橘晃生（筑波大学 理工学群 工学システム学類）
内田美紗子（筑波大学 理工学群 工学システム学類）
瀬上智也（東京大学　工学部　精密工学科）
村雲龍登（東京工科大学　工学部　機械工学科）
古川寛樹（東京工業大学　工学院　システム制御系）
呉知勲（東京工業大学　工学院　機械系）
西村完相（東京都立大学　システムデザイン学部　機械システム工学科）
青木舜哉（東洋大学　理工学部　機械工学科 ）
山崎達也（富山県立大学　工学部知能　ロボット工学科）
佐々木友真（豊橋技術科学大学　工学部　機械工学課程）
大崎嵩友（名古屋大学　工学部　機械・航空宇宙工学科）
海野椋太（日本工業大学　先進工学部　ロボティクス学科）
成木太音（北海道大学　工学部　情報エレクトロニクス学科）
清水琉世（名城大学　理工学部　メカトロニクス工学科）
為永紘基（山形大学　工学部　機械システム工学科）
谷村瞭（横浜国立大学　理工学部　機械・材料・海洋系学科　機械工学教育プログラム）
山本一天（立命館大学　理工学部　ロボティクス学科）
柴田康平（和歌山大学　システム工学部 システム工学科 機械電子制御メジャー）
高澤彩紀（早稲田大学　創造理工学部　総合機械工学科）

VI. 国際（継続事業 6）[担当：国際理事]（定款第４条５号）

１．国際委員会活動

国際委員会は，日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして RSJ の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし，このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している．今年度もこれまでの活動を継続し，

・ 国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス，
・ 国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み，
・ Pacific-Asia Robotics Society Union（PARSU）をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化

の３つを柱に活動を行った．

２．第 40 回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

これまでと同様に，日本ロボット学会学術講演会において，国際セッションを実施した．国際セッションでは，セッションの司会，発表，質疑応答の全てが英語で行われる．発表者には，日本に滞在する留学生，研究者が多く含まれ，日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは，外国人会員に対する有益なサービスであるとともに，日本ロボット学会を海外の研究者，技術者に知ってもらうための貴重な機会である．また日本の若手研究者にとって，国際学会で発表する前の練習としても利用されており，このような場を提供する意義は大きい．今年度の第 40 回日本ロボット学会学術講演会においては，

・IS1: Human and Robot　　17 件
・IS2: AI, Learning and Control　　10 件
・IS3: Robotics and Manipulation　　14 件　　（合計 41 件）

の３つのトピックでの論文が５つの時間帯（スロット）で発表された．2012 年～2021 年の論文発表件数はそれぞれ，41 件，26 件，27 件，16 件，23 件，14 件，19 件，31 件，14 件，25 件となっている．数年ぶりの対面開催ということもあり，ここ数年と比較して大幅に投稿数が増加した．国際セッションを盛り上げていくためには，国際担当理事だけでなく，

国際委員にセッションを企画していただくなど一層の改善が必要と考える．また，2019 年から引き続き，国際セッションでの優秀な発表を対象にした賞（International Session Best Presentation Award）の審査を行い Winner 1 件の授与と Finalist2 件の授与を以下の通り行った．

International Session Best Presentation Award

Winner: Wendyam Eric Lionel Ilboudo (Nara Institute of Science and Technology)

Finalist: Junbo Zhang (Osaka University), Keli Shen (AIST)

また本年度はこれに加え，学会誌理事，欧文誌理事と共同で Open Forum を企画し，研究成果を論文にまとめる意義とをその技術について議論する場を設け，前田雄介先生（横浜国大），倉林大輔先生（東工大），Gentiane Venture 先生（東大），小島邦生先生（東大）にそれぞれご講演頂き，質疑応答・総合討論を行った．

3．国際交流活動

（3-1）引き続き PARSU の活動方針，PARSU メンバーに向けた RSJ の貢献の仕方について議論する．

（3-2）これまでの PARSU サミット会議での合意事項の推進

・PARSU ホームページ（http://www.asian-robotics.org/）の更新と研究成果情報の共有

- コンテンツの充実化、タイムリーな情報更新をはかる（議事録，各学会の主催する国際学会へのリンクなど）

（3-3）インド TRS との活動

・今後のインド TRS との連携について引き続き議論する．

4．国際会議への対応

RSJ が共催となっている RO-MAN と IROS に対し，以下のような活動を行った．

（1）The 31st IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2022)

期間：日程：2022 年 8 月 29 日～9 月 2 日　イタリア・ナポリ（ハイブリッド開催）

期間中にステアリング会議（現地＋オンライン形式）が開催され，ロボット学会からは会長，国際担当理事 2 名，事務局長 1 名がオンライン出席し，スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した．また本会議では，本年度より新しく制定された RSJ Pioneering Research Award in Robot and Human Interactive Communication の授与を以下の通り行った．

Winner: Fraser Robinson, Zinan Cen, Hani E. Naguib, Goldie Nejat, "Socially Assistive Robotics and Wearable Sensors for Intelligent User Dressing Assistance"

（2）2022 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2022)

期間：2022 年 10 月 23 日～10 月 27 日　京都（現地＋オンライン）

10 月 22 日，IROS Advisory/Steering Committee Meeting が開催され（現地＋オンライン形式），RSJ からは会長，副会長 1 名，事務局長 1 名が現地出席，国際担当理事 3 名がオンライン出席し，今後の開催体制や開催計画などを確認した．

- IROS35 周年特別記念行事への企画に SICE と協力のうえ貢献した．
- IROS2021 決算，IROS2022 予算，デトロイトで開催される IROS2023 予算について報告・議論があった．

今後も継続して，IROS での当学会の存在感を根付かせることを目標に，Advisory / Steering Committee Meeting への継続的な参加を図る．またこれまで IROS においては RSJ Collaboration Lunch for Industry and Academia を開催してきたがここ数年 COVID-19 の影響で中止となった．今後の IROS における RSJ 主催イベントの企画および実施方法について検討する．

5．英文誌特集号企画への参画

本年度も引き続きコロナ渦で国際的な活動が制限される状況が続いた．そうした中での国際的活動として，英文誌特集号企画への参画を行った．具体的には，Advanced Robotics 誌において”RO-MAN2022 特集号”の企画および参画を行った．

6. 国際会議共催／協賛

共催となっている RO-MAN および IROS を含め，本会に関連する国際会議を共催（3 件），協賛（9 件），後援（2 件）した（2022 年 1 月～12 月 31 日審査分）．

Ⅶ. 学術講演会（その他事業 1）[担当：学術講演会理事]（定款第 4 条 1 号）

1．学術講演会

（1）第 40 回学術講演会

期日：2022 年 9 月 5 日(月)～9 日(金)

会場：東京大学 本郷キャンパス

実行委員長：太田 順（東京大学）

実行副委員長：小林 英津子（東京大学）

プログラム委員長：岡田 慧（東京大学）

プログラム副委員長：宮田 なつき（産業技術総合研究所）

【発表件数：716 件】

一般セッション：67 テーマ

オーガナイズドセッション：21 テーマ

International Session：3 テーマ

スポンサー企業: 16 件（ダイヤモンド：5 件，ゴールド 9 件，シルバー2 件）

【特別企画】

（1）創立 40 年記念シンポジウム「2050 年に向けて日本ロボット学会の進むべき道」

司会：佐久間 一郎氏（東京大学）

シンポジスト：菅野 重樹氏（早稲田大学），鈴森 康一氏（東京工業大学），永谷 圭司氏（東京大学），
平田 泰久氏（東北大学），安藤 健氏（パナソニック），印藤 正裕氏（清水建設），
森岡 昌宏氏（ファナック），村上 弘記氏（日本ロボット学会会長）

（2）特別講演：「AI／ロボット社会実装の課題と矛盾」

講演者：江間 有沙 氏　東京大学未来ビジョン研究センター准教授 /
理化学研究所革新知能統合研究センター客員研究員

【参加者数：1,519 名】

正会員／終身会員：548 名

学生会員：176 名

協賛後援団体一般会員：79 名

協賛後援団体学生会員：92 名

一般非会員：133 名

学生非会員：299 名

賛助会員：60 名

招待者：132 名

Ⅷ．講習会（その他事業 2）[担当：事業理事]（定款第４条１号）

１．ロボット工学セミナー

コロナ禍の影響を鑑み，本年度上期はオンラインでの開催，下期はハイブリッド開催も可能とした．

（１）第 139 回セミナー「ロボットの作り方〜移動ロボットの基本と ROS によるナビゲーション実習〜」

期日：2022 年 1 月 29 日（土）・30 日（日）オンライン開催

講師：上田隆一(千葉工業大学)，赤井直紀（名古屋大学）

オーガナイザー：ガルシアリカルデス グスタボアルフォンソ（立命館大学）

野口宏明（パナソニック アドバンストテクノロジー）

参加者：59 名（会員・協賛 13 名，学生会員・協賛：16 名，会員外：13 名，会員外学生：13 名，

賛助優待：4 名，賛助招待：0 名）

（２）第 140 回セミナー「ロボットのための強化学習/深層強化学習」

期日：2022 年 5 月 10 日（火）オンライン開催

講師：前田新一(Preferred Networks)，有木由香(ソニーグループ)，太田佳(三菱電機)，長隆之(九州工業大学)

松原崇充(奈良先端科学技術大学院大学)，濵屋政志(オムロン サイニックエックス)

オーガナイザー：井尻善久（LINE）

参加者：202 名（会員・協賛 82 名，学生会員・協賛：28 名，会員外：27 名，会員外学生：19 名，

賛助優待：22 名，賛助招待：24 名）

（３）第 141 回セミナー「ロボット工学における微分幾何学基礎」

期日：2022 年 8 月 12 日（金）オンライン開催

講師：石川将人(大阪大学)，有泉亮(名古屋大学)，関本昌紘(富山大学)，鏡慎吾(東北大学)，佐藤寛之(京都大学)，

鍛冶 静雄(九州大学)

オーガナイザー：岩本憲泰（信州大学）

参加者：117 名（会員・協賛 72 名，学生会員・協賛：22 名，会員団体:8 名，会員外：6 名，会員外学生：3 名，

賛助優待：3 名，賛助招待：3 名）

（４）第 142 回セミナー「ロボットの作り方-移動ロボットの制御と ROS による動作計画実習-」

期日：2022 年 9 月 10 日（土）・9 月 11 日（日）オンライン開催

講師：上田隆一（千葉工業大学），安積卓也(埼玉大学)

オーガナイザー：禹ハンウル（工学院大学），片岡大哉（ティアフォー）

参加者：27 名（会員・協賛 12 名，学生会員・協賛：2 名，会員外：6 名，会員外学生：5 名，賛助優待：0 名，

賛助招待：2 名）

（５）第 143 回セミナー「土木・建設現場のロボット化」

期日：2022 年 10 月 20 日（木） 東京大学武田ホール及びオンライン開催

講師：大須賀公一(大阪大学)，松下文哉(清水建設)，宮口幹太(竹中工務店)，那須野薫(DeepX)，

山内元貴(土木研究所)

オーガナイザー：中村 哲司（日立製作所）

参加者：61 名（会員・協賛 30 名，学生会員・協賛：5 名，会員外：10 名，会員外学生：0 名，賛助優待：6 名，

賛助招待：10 名）

（６）第 144 回セミナー「ロボットのための音声・音響処理技術」

期日：2022 年 11 月 18 日（金）オンライン開催

講師：中臺一博(東京工業大学)，井上昂治(京都大学)，戸田智基(名古屋大学)，坂東宜昭(産総研)，

井本桂右(同志社大学)

オーガナイザー：高椋 佐和（アイシン）

参加者：24 名（会員・協賛 4 名，学生会員・協賛：9 名，会員外：2 名，会員外学生：3 名，賛助優待：2 名，

賛助招待：4 名）

（7）第 145 回セミナー「極限環境で活躍する水中ロボットの世界」

期日：2022 年 12 月 12 日（月）オンライン開催

講師：浦環(ディープ・リッジ・テク)，小島淳一(KDDI 総合研究所)，高川真一(設計コンサルタント)，
石川暁久(日本海洋事業)，清水悦郎(東京海洋大学)，篠野雅彦(海上技術安全研究所)，
ソーントン・ブレア(東京大学)

オーガナイザー：西田 祐也（九州工業大学）

参加者：61 名（会員・協賛 21 名，学生会員・協賛：10 名，会員団体：10 名，会員外：7 名，
会員外学生：2 名，賛助優待：6 名，賛助招待：5 名）

2．共催事業

本会に関連する国内行事（講演会，シンポジウム，講習会，展示会，コンテスト等）の共催・協賛・後援について審査を行った．共催 5 件，協賛 69 件，後援 17 件，協力 1 件（2022 年 1 月 1 日～12 月 31 日審査分）

主な国内共催事業：

（1）レスキューロボットコンテスト 2022（2021 年 12 月 4 日～2022 年 8 月 14 日）

（2）知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2022（2022 年 6 月 19 日）

（3）つくばチャレンジ 2022（2022 年 7 月 2 日～2022 年 12 月/17 日）

（4）第 20 回建設ロボットシンポジウム（2022 年 8 月 24 日～2022 年 8 月 26 日）

（5）原子力総合シンポジウム 2022（2022 年 1 月 26 日）

IX．法人処理［担当：庶務理事］

1．会員状況

	令和 4 年 12 月 31 日現在	令和 3 年 12 月 31 日現在	増　減
名誉会員	11 名	9 名	2 名増
正会員	2,788 名	2,821 名	33 名減
学生会員 A	176 名	186 名	10 名減
学生会員 B	472 名	489 名	17 名減
終身会員	174 名	159 名	15 名増
会員総数	3,621 名	3,664 名	43 名減
賛助会員	95 団体(116 口)	100 団体(121 口)	5 団体減(5 口減)

2．総会

（1）第 12 回定時総会

会　期：令和 4 年 3 月 22 日(火)　会　場：日本ロボット学会事務局会議室（オンライン併催）

出席代議員数：58 名（うち委任状提出：21 名）

（代議員総数：59 名，総会成立の定数 30 名以上，議題の可決に必要な出席代議員数 40 名以上）

議　題：令和 3 年度の事業報告・決算報告，令和 4 年度の事業計画・予算計画，令和 4 年度役員の選任，名誉会員の選出，以上について審議し，議決した．

3．委員会

下記の委員会を開催した．

	委員会名	委員長 （1 月～3 月）	委員長 （3 月～12 月）
(1)	会誌編集委員会	大川 一也	前田 雄介
(2)	欧文誌委員会	下田 真吾	山本 江
(3)	事業計画委員会	島 圭介	槇田 諭
(4)	国際委員会	ベンチャー ジェンチャン	中西 淳 / 田原 健二
(5)	研究協議会	橋本 浩一	橋本 浩一
(6)	学術講演会実行委員会	山崎 公俊(39 回)	太田 順(40 回)
(7)	表彰委員会	菅野 重樹	菅野 重樹
(8)	学会誌論文賞選考小委員会	橋本 浩一	橋本 浩一
(9)	Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	菅野 重樹	菅野 重樹
(10)	実用化技術賞選考小委員会	菅野 重樹	菅野 重樹
(11)	研究奨励賞選考小委員会	橋本 浩一	橋本 浩一
(12)	功労賞選考小委員会	菅野 重樹	菅野 重樹
(13)	ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	橋本 浩一	橋本 浩一
(14)	学術講演会関連賞選考小委員会	橋本 浩一	橋本 浩一
(15)	ロボティクスシンポジア関連賞選考小委員会	橋本 浩一	橋本 浩一
(16)	外部表彰選考小委員会	菅野 重樹	菅野 重樹
(17)	体制整備委員会	村上 弘記	村上 弘記
(18)	アドバイザリーボード	村上 弘記	村上 弘記
(19)	コンプライアンス委員会	村上 弘記	村上 弘記
(20)	情報システム管理委員会	服部 誠	伊藤 真平
(21)	学術講演会運営委員会	菅野 重樹	菅野 重樹
(22)	ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	植木 美和	小椋 優
(23)	学会価値委員会	村上 弘記	村上 弘記

4．役員の選出

令和 4 年度の理事・監事を選出した．

5．運営報告会，理事会

（1）令和 4 年 9 月 6 日（火）に運営報告会を開催し，会務報告を行った．

（2）令和 4 年度中に 10 回の理事会を開催し，会務の審理と処理を行った．

6．フェローの選任

4 名のフェローを選任した．

7．学会の基盤強化

今年度も，理事会・各種委員会で，個人会員及び賛助会員の増大を目指し，各種改善施策の推進・実施に務めたが，個人会員および賛助会員数共に減少となった．会員数の増強に関しては，引き続き努力中であり，継続が必要である．なお，旧来からの問題であった，女性会員の比率が低い件について，昨年度から設置したジェンダー対策 WG を中心に，短期的な対策だけでなく中長期的な視点で改善を図る取り組みを開始している．今年度は，女性研究者・技術者のキャリア紹介に関するオープンフォーラムや，女子中高生に向けたキャリア講演会等を実施した．

COVID-19 を契機に，多くの事業や各種の委員会，学会運営業務をオンラインで円滑に進めるためのツールや仕組みの整備も進めてきた．また昨今の社会課題でもある，働き方改革，業務の効率化，ペーパーレス化といった課題にも段階的な取り組みを進めている．今後も継続して，学会員へのサービス向上につながる学会運営の基盤強化を図る．

8．学会の社会的価値・サービスの向上

今年度の第 40 回学術講演会は，社会情勢も鑑みつつ，十分な感染症対策の元，対面，現地開催で実施した．オンライン開催では困難であった，研究者同士の交流，活発な議論の場となり，非常に好評，盛況であった．また例年以上の多くの参加者数であり，収益増にもつながった．

HP 編集委員会では，学会 HP「ロボ學」を活用した情報発信を活発に実施している．学生編集委員会による学術講演会レポートや企業インタビュー，各研究専門委員会による活動報告，解説記事や寄稿の掲載など，頻繁に更新を実施した．今後も多様なコンテンツの充実を進める．

新事業検討 WG では，ロボット工学セミナーのオンデマンド配信化などのサービス向上策を検討中である．

X．事業報告に係る附属明細書[担当：庶務理事]

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません．

【第２号議案】

令和４年度　決算報告

貸　借　対　照　表

令和4年12月31日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ資　産　の　部			
1.流　動　資　産			
現　金　預　金	271,723,226	249,378,522	22,344,704
現　　金	3,887,511	4,002,276	△ 114,765
普　通　預　金	126,095,255	103,742,186	22,353,069
振　替　口　座	7,239,391	7,135,259	104,132
通　常　貯　金	989,545	989,537	8
定　期　預　金	133,511,524	133,509,264	2,260
未　収　会　費	1,578,000	1,644,000	△ 66,000
未　収　金	2,974,246	2,953,786	20,460
前　払　金	1,072,175	550,968	521,207
立　替　金	0	36,300	△ 36,300
仮　払　金	6,270,536	6,504,265	△ 233,729
流動資産合計	283,618,183	261,067,841	22,550,342
2.固　定　資　産			
(1)特　定　資　産			
退職給付引当資産	15,454,700	15,246,311	208,389
定　期　預　金	21,000,000	21,000,000	0
特定資産合計	36,454,700	36,246,311	208,389
(2)その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷　　金	63,000	63,000	0
保　証　金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	39,170,800	38,962,411	208,389
資　産　合　計	322,788,983	300,030,252	22,758,731
Ⅱ負　債　の　部			
1.流　動　負　債			
未　払　金	2,146,096	404,293	1,741,803
前　受　会　費	19,702,400	21,374,000	△ 1,671,600
前　受　金	0	669,500	△ 669,500
前受入会金	1,000	2,000	△ 1,000
預　り　金	1,080,112	1,017,130	62,982
仮　受　金	3,682,262	3,758,725	△ 76,463
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	26,681,870	27,295,648	△ 613,778
2.固　定　負　債			
退職給付引当金	15,454,700	15,246,311	208,389
固定負債合計	15,454,700	15,246,311	208,389
負　債　合　計	42,136,570	42,541,959	△ 405,389
Ⅲ正味財産の部			
一般正味財産	280,652,413	257,488,293	23,164,120
（うち特定資産への充当額）	(21,000,000)	(21,000,000)	(0)
正味財産合計	280,652,413	257,488,293	23,164,120
負債及び正味財産合計	322,788,983	300,030,252	22,758,731

貸借対照表内訳表

令和4年12月31日現在

（単位：円）

科　　目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合　計
Ⅰ資　産　の　部					
1.流　動　資　産					
現金預金	3,470,536		268,252,690		271,723,226
未収会費			1,578,000		1,578,000
未収金			2,974,246		2,974,246
前払金			1,072,175		1,072,175
仮払金			6,270,536	3,470,536	2,800,000
流動資産合計	3,470,536	0	280,147,647	3,470,536	280,147,647
2.固　定　資　産					
(1)特定資産					
退職給付引当資産	11,509,774	358,325	3,586,601		15,454,700
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	11,509,774	358,325	24,586,601	0	36,454,700
(2)その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷　　金			63,000		63,000
保　証　金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	11,586,038	383,530	27,201,232	0	39,170,800
資　産　合　計	15,056,574	383,530	307,348,879	3,470,536	319,318,447
Ⅱ負　債　の　部					
1.流　動　負　債					
未払金			2,146,096		2,146,096
前受会費			19,702,400		19,702,400
前受入会金			1,000		1,000
預り金			1,080,112		1,080,112
仮受金	3,470,536		211,726	3,470,536	211,726
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	3,470,536	0	23,211,334	3,470,536	23,211,334
2.固　定　負　債					
退職給付引当金	11,509,774	358,325	3,586,601		15,454,700
固定負債合計	11,509,774	358,325	3,586,601	0	15,454,700
負　債　合　計	14,980,310	358,325	26,797,935	3,470,536	38,666,034
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
Ⅲ正 味 財 産 の 部					
一般正味財産	0	0	280,652,413	0	280,652,413
正味財産合計	0	0	280,652,413	0	280,652,413
負債及び正味財産合計	15,056,574	383,530	307,348,879	3,470,536	319,318,447

正味財産増減計算書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

No.1　　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
①特定資産運用益	126	119	7
特定資産受取利息	126	119	7
②受取入会金	112,000	74,000	38,000
正会員受取入会金	112,000	74,000	38,000
学生会員受取入会金	0	0	0
③受取会費	40,222,400	40,297,200	△ 74,800
正会員受取会費	28,636,000	28,510,000	126,000
学生会員受取会費	1,906,400	1,787,200	119,200
賛助会員受取会費	9,680,000	10,000,000	△ 320,000
④事業収益	49,514,388	37,274,196	12,240,192
参加費事業収益	22,818,000	16,320,000	6,498,000
懇親会参加費事業収益	0	0	0
展示料事業収益	5,800,000	2,190,000	3,610,000
講演概要集広告料事業収益	0	0	0
セミナー参加費事業収益	4,364,000	3,338,400	1,025,600
会誌掲載料事業収益	7,631,800	6,932,200	699,600
会誌広告料事業収益	5,129,388	4,717,196	412,192
会誌頒布事業収益	1,227,600	1,267,200	△ 39,600
編集料事業収益	2,543,600	2,509,200	34,400
⑤受取補助金等	0	1,191,000	△ 1,191,000
受取国庫補助金	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	1,191,000	△ 1,191,000
受取民間補助金	0	0	0
⑥雑収益	24,950,778	2,993,528	21,957,250
受取利息	3,497	7,528	△ 4,031
雑収益	24,947,281	2,986,000	21,961,281
経常収益計	114,799,692	81,830,043	32,969,649
(2)経常費用			
①事業費	63,827,054	50,349,944	13,477,110
給料手当	10,494,260	10,374,464	119,796
臨時雇賃金	4,965,196	4,574,276	390,920
退職給付費用	208,365	794,894	△ 586,529
福利厚生費	1,683,965	1,664,160	19,805
旅費交通費	282,530	24,570	257,960
通信運搬費	4,237,897	4,420,492	△ 182,595
消耗什器備品費	0	198,000	△ 198,000
消耗品費	735,616	1,187,406	△ 451,790
印刷製本費	14,799,061	14,767,647	31,414
賃借料	1,915,990	170,434	1,745,556
諸謝金	1,828,328	1,770,893	57,435
租税公課	1,044,500	583,300	461,200
支払負担金	5,152,080	81,704	5,070,376
委託費	15,346,880	8,303,968	7,042,912
雑費	1,132,386	1,433,736	△ 301,350
②管理費	27,738,518	27,416,684	321,834
給料手当	9,658,683	9,562,499	96,184
臨時雇賃金	332,423	0	332,423
退職給付費用	24	301,691	△ 301,667
福利厚生費	1,661,000	1,482,375	178,625
旅費交通費	95,002	6,780	88,222

正味財産増減計算書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

No.2　　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
通信運搬費	946,194	1,258,657	△ 312,463
消耗什器備品費	0	198,590	△ 198,590
消耗品費	333,900	501,242	△ 167,342
修繕費	64,790	11,550	53,240
印刷製本費	477,285	692,169	△ 214,884
光熱水料費	452,455	350,829	101,626
賃借料	7,506,573	7,144,552	362,021
保険料	12,000	0	12,000
支払手数料	1,745,674	1,523,375	222,299
諸会費	341,806	342,477	△ 671
諸謝金	1,154,450	929,280	225,170
租税公課	56,200	45,050	11,150
委託費	2,136,799	2,294,848	△ 158,049
雑費	763,260	770,720	△ 7,460
経常費用計	91,565,572	77,766,628	13,798,944
評価損益等調整前当期経常増減額	23,234,120	4,063,415	19,170,705
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	23,234,120	4,063,415	19,170,705
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	23,234,120	4,063,415	19,170,705
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	23,164,120	3,993,415	19,170,705
一般正味財産期首残高	257,488,293	253,494,878	3,993,415
一般正味財産期末残高	280,652,413	257,488,293	23,164,120
Ⅱ指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ正味財産期末残高	280,652,413	257,488,293	23,164,120

正味財産増減計算書内訳表

令和 4年 1月 1日から令和 4年12月31日まで

NO.1　　(単位：円)

科目	実施事業等会計							
	継１ シンポジウム	継２ 学会誌	継３ 欧文誌	継４ 調査・研究	継５ 表彰	継６ 国際	共通	小計 (A)
Ⅰ一般正味財産増減の部								
１．経常増減の部								
（１）経常収益								
特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産受取利息								
受取入会金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
正会員受取入会金								
受取会費	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	**0**	**13,988,788**	**2,543,600**	**0**	**0**	**0**	**0**	**16,532,388**
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		7,631,800						7,631,800
会誌広告料事業収益		5,129,388						5,129,388
会誌頒布事業収益		1,227,600						1,227,600
編集料事業収益			2,543,600					2,543,600
受取補助金等								
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取民間補助金								
受取寄付金								
受取寄付金								
雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取利息								
雑収益								
経常収益計	**0**	**13,988,788**	**2,543,600**	**0**	**0**	**0**	**0**	**16,532,388**
（２）経常費用								
事業費	**449,090**	**25,602,523**	**7,621,100**	**1,348,800**	**6,078,857**	**3,079,949**	**0**	**44,180,319**
給料手当		5,400,712			4,353,664			9,754,376
臨時雇賃金		100,920						100,920
退職給付費用		208,328			35			208,363
福利厚生費		874,376			694,164			1,568,540
旅費交通費	1,660	2,564	50,794	67,180	820	60,840		183,858
通信運搬費	28,404	3,407,300		75,285		39,650		3,550,639
消耗什器備品費								
消耗品費		19,119	4,312	3,741	71,514	1,980		100,666
印刷製本費	221,497	12,476,744		95,110		12,234		12,805,585
賃借料	81,120			112,590				193,710
諸謝金	5,568			766,555				772,123
租税公課		518,300	8,000					526,300
支払負担金	81,690		4,239,590	93,594				4,414,874
委託費		2,584,660	3,318,404			2,965,245		8,868,309
雑費	29,151	9,500		134,745	958,660			1,132,056
管理費	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								
消耗品費								
修繕費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	**449,090**	**25,602,523**	**7,621,100**	**1,348,800**	**6,078,857**	**3,079,949**	**0**	**44,180,319**
評価損益等調整前当期経常増減額	-449,090	-11,613,735	-5,077,500	-1,348,800	-6,078,857	-3,079,949	0	-27,647,931
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-449,090	-11,613,735	-5,077,500	-1,348,800	-6,078,857	-3,079,949	0	-27,647,931
２．経常外増減の部								
（１）経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
（２）経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	-449,090	-11,613,735	-5,077,500	-1,348,800	-6,078,857	-3,079,949	0	-27,647,931
他会計振替額	449,090	11,613,735	5,077,500	1,348,800	6,078,857	3,079,949	0	27,647,931
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
一般正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
一般正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
Ⅱ指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**

正味財産増減計算書内訳表

令和 4年 1月 1日から令和 4年12月31日まで

No.2　　(単位：円)

科目	その他会計				法人会計 (C)	内部取引消去	合計 (A)+(B)+(C)
	他1 学術講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
Ⅰ一般正味財産増減の部							
1．経常増減の部							
（1）経常収益							
特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**126**	**0**	**126**
特定資産受取利息					126		126
受取入会金	**0**	**0**	**0**	**0**	**112,000**	**0**	**112,000**
正会員受取入会金					112,000		112,000
受取会費	**0**	**0**	**0**	**0**	**40,222,400**	**0**	**40,222,400**
正会員受取会費					28,636,000		28,636,000
学生会員受取会費					1,906,400		1,906,400
賛助会員受取会費					9,680,000		9,680,000
事業収益	**28,618,000**	**4,364,000**	**0**	**32,982,000**	**0**	**0**	**49,514,388**
申込金事業収益							
参加費事業収益	22,818,000			22,818,000			22,818,000
懇親会参加費事業収益							
展示料事業収益	5,800,000			5,800,000			5,800,000
講演概要集広告料事業収益							
セミナー参加費事業収益		4,364,000		4,364,000			4,364,000
会誌掲載料事業収益							7,631,800
会誌広告料事業収益							5,129,388
会誌頒布事業収益							1,227,600
編集料事業収益							2,543,600
受取補助金等							
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取民間補助金							
受取寄付金							
受取寄付金							
雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**24,950,778**	**0**	**24,950,778**
受取利息					3,497		3,497
雑収益					24,947,281		24,947,281
経常収益計	**28,618,000**	**4,364,000**	**0**	**32,982,000**	**65,285,304**	**0**	**114,799,692**
（2）経常費用							
事業費	**14,951,841**	**4,694,894**	**0**	**19,646,735**	**0**	**0**	**63,827,054**
給料手当	739,884			739,884			10,494,260
臨時雇賃金	1,363,600	3,500,676		4,864,276			4,965,196
退職給付費用	2			2			208,365
福利厚生費	115,425			115,425			1,683,965
旅費交通費	93,136	5,536		98,672			282,530
通信運搬費	684,189	3,069		687,258			4,237,897
消耗什器備品費							
消耗品費	623,072	11,878		634,950			735,616
印刷製本費	1,993,476			1,993,476			14,799,061
賃借料	1,612,280	110,000		1,722,280			1,915,990
諸謝金	111,370	944,835		1,056,205			1,828,328
租税公課	410,300	107,900		518,200			1,044,500
支払負担金	726,206	11,000		737,206			5,152,080
委託費	6,478,571			6,478,571			15,346,880
雑費	330			330			1,132,386
管理費	**0**	**0**	**0**	**0**	**27,738,518**	**0**	**27,738,518**
給料手当					9,658,683		9,658,683
臨時雇賃金					332,423		332,423
退職給付費用					24		24
福利厚生費					1,661,000		1,661,000
会議費							
旅費交通費					95,002		95,002
通信運搬費					946,194		946,194
消耗什器備品費							
消耗品費					333,900		333,900
修繕費					64,790		64,790
印刷製本費					477,285		477,285
光熱水料費					452,455		452,455
賃借料					7,506,573		7,506,573
保険料					12,000		12,000
支払手数料					1,745,674		1,745,674
諸会費					341,806		341,806
諸謝金					1,154,450		1,154,450
租税公課					56,200		56,200
委託費					2,136,799		2,136,799
雑費					763,260		763,260
経常費用計	**14,951,841**	**4,694,894**	**0**	**19,646,735**	**27,738,518**	**0**	**91,565,572**
評価損益等調整前当期経常増減額	13,666,159	-330,894	0	13,335,265	37,546,786	0	23,234,120
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	13,666,159	-330,894	0	13,335,265	37,546,786	0	23,234,120
2．経常外増減の部							
（1）経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
（2）経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	13,666,159	-330,894	0	13,335,265	37,546,786	0	23,234,120
他会計振替額	-13,666,159	330,894	0	-13,335,265	-14,312,666	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	23,234,120	0	23,234,120
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	**0**	**0**	**0**	**0**	**23,164,120**	**0**	**23,164,120**
一般正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**257,488,293**	**0**	**257,488,293**
一般正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**280,652,413**	**0**	**280,652,413**
Ⅱ指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	**0**	**280,652,413**	**0**	**280,652,413**

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(2)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	15,246,311	208,389	0	15,454,700
定 期 預 金	21,000,000	0	0	21,000,000
合　　計	36,246,311	208,389	0	36,454,700

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	15,454,700	―	(15,454,700)	(15,454,700)
定 期 預 金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	―
合　　計	36,454,700	(0)	(36,454,700)	(15,454,700)

附 属 明 細 書

1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科　目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	15,246,311	208,389	0	0	15,454,700

財　産　目　録

令和4年12月31日現在

（単位：円）

科目		金額		
Ⅰ 資産の部				
1 流動資産				
現金預金				
現金	手許有高	3,887,511		
普通預金	三菱UFJ銀行本店	28,206,263		
〃	みずほ銀行本郷支店	15,377,054		
〃	りそな銀行本郷支店	29,607,994		
〃	三井住友銀行小石川支店	10,046,303		
〃	三井住友銀行小石川支店	42,857,641		
定期預金	三井住友銀行小石川支店	55,294,406		
〃	三菱UFJ信託銀行本店	60,144,822		
〃	みずほ銀行本郷支店	18,072,296		
振替口座	ゆうちょ銀行	7,239,391		
通常貯金	ゆうちょ銀行	989,545		
未収会費	令和4年度会費　225名	1,578,000		
未収金	学会誌投稿料・広告料他	2,974,246		
前払金	令和5年1月分事務所家賃他	1,072,175		
仮払金	IROS2022　Advanced Loan	2,800,000		
	流動資産合計		280,147,647	
2 固定資産				
(1)特定資産				
退職給付引当資産(普通預金)	三菱UFJ銀行春日町支店	15,454,700		
定期預金	三菱UFJ銀行本店	21,000,000		
	特定資産合計	36,454,700		
(2)その他固定資産				
電話加入権	2本	153,100		
敷金	賃貸借契約敷金	63,000		
保証金	賃貸借契約保証金	2,500,000		
	その他固定資産合計	2,716,100		
	固定資産合計		39,170,800	
	資産合計			319,318,447
Ⅱ 負債の部				
1 流動負債				
未払金	日本ロボット学会誌40-10 出版費、公告・別刷料	1,326,091		
〃	日本ロボット学会誌40-10 封入・発送費	298,619		
〃	人材派遣費12月分	287,940		
〃	研究専門委員会講師謝金	101,661		
〃	税理士顧問料(11,12月分) 他	131,785		
前受会費	会費前受分	19,702,400		
前受入会金	入会金前受分	1,000		
預り金	源泉所得税	374,480		
〃	住民税	79,300		
〃	社会保険料	626,332		
仮受金	第27回ロボティクスシンポジアサープラス(JSME,SICE分)他	211,726		
未払法人税等	令和4年分法人都民税	70,000		
	流動負債合計		23,211,334	
2 固定負債				
退職給付引当金	退職給付分	15,454,700		
	固定負債合計		15,454,700	
	負債合計			38,666,034
	正味財産			280,652,413

監　査　報　告

私たち監事は，令和 4 年 1 月 1 日から令和 4 年 12 月 31 日までの第十二期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました．その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします．

１．監査の方法及びその内容

各監事は，理事及び使用人等と意思疎通を図り，情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに，理事会その他重要な会議に出席し，理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け，必要に応じて説明を求め，重要な決裁書類等を閲覧し，主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました．以上の方法に基づき，当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました．

さらに，会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い，当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む），正味財産増減計算書（内訳表を含む），財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました．

２．監査の結果

(1)　事業報告等の監査結果

一　事業報告及びその附属明細書は，法令及び定款に従い，法人の状況を正しく示しているものと認めます．

二　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません．

(2)　財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は，法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます．

令和 5 年 2 月 16 日

一般社団法人 日本ロボット学会

監事　　浅田　　稔　　印

監事　　松野　文俊　　印

【報告資料 1】

令和 5 年度　事業計画

（自　令和 5 年 1 月 1 日　至　令和 5 年 12 月 31 日）

Ⅰ．シンポジウム（継続事業 1）[担当：事業理事／学術講演会理事]

1．ロボット教育セミナー

ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室（仮）」

期日：2023 年 7 or 8 月（予定）

2．オープンフォーラム

第 41 回学術講演会（宮城県仙台市　仙台国際センター展示棟，2023 年 9 月 11 日(月)～14 日(木)）にて，オープンフォーラム（無料・一般公開）を企画予定．

Ⅱ．学会誌（継続事業 2）[担当：学会誌理事]（定款第 4 条 2 号）

従来通り，学会誌全 10 号を，1 月，3 月，4 月，5 月，6 月，7 月，9 月，10 月，11 月，12 月に刊行し，会員に配布する．なお，各号の特集テーマは以下を予定している．

第 41 巻 1 号	ロボット ELSI の現状と課題
第 41 巻 2 号	脚歩行：受動的ロコモーション（仮）
第 41 巻 3 号	神経・身体・環境の相互作用から創発する多脚ロボットの歩容（仮）
第 41 巻 4 号	臨床医療応用を目指したロボットシステムの開発（仮）
第 41 巻 5 号	ロボティクス新パラダイムの受容，過去と未来（仮）
第 41 巻 6 号	ロボティクスと微分幾何学（仮）
第 41 巻 7 号	開かれた知能のこれまでとこれから（仮）
第 41 巻 8 号	ACT-X AI 活用で挑む学問の革新と創成（仮）
第 41 巻 9 号	（未定）
第 41 巻 10 号	（未定）

特集については，ロボット学の幅広い学問領域において，学術的真理の追求から社会的問題解決に至るまで，偏りなく縦横無尽に特集を展開する．また，会員の興味がありそうな話題についての一般記事を不定期で掲載するなど会誌の魅力向上にも取り組む．

学生編集委員による記事執筆・ロボ學ウェブサイトとの連携なども継続的に実施していく．

令和 2 年度から始まった学術講演会とのレター同時投稿制度については，論文投稿数の増加に大きく貢献しているが，短期間に多くの論文が投稿されることから事務局および論文査読小委員会の負担が大きいため，ScholarOne Manuscript 上でのシステム改善による負担軽減を検討する．また，第 39 巻 9 号分より開始している掲載決定論文の早期公開の制度の周知など，著者サービスの強化を通しても投稿数の確保に努める．

広告に関しては，収入目標を例年と同様 400 万円と設定し，特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた取り組みを進める．

III．欧文誌（継続事業 3）[担当：欧文誌理事]（定款第４条２号）

１．欧文誌（Advanced Robotics）の発行計画

下記のとおり，2023 年度においては Vol. 37 を年 24 号発行することを計画している．

Vol./No.	Online Pub. date	Theme of Issues
37/1-2	2023/Jan	Control Technology for Networked and Distributed Robotics (Part I)
37/3	Feb	Soft/Social/Systemic (3S) Robot Technologies for enhancing Quality of New Normal
37/4	Feb	Adaptive Motion of Animals and Machines
37/5	Mar	Online Motion Planning and Model Predictive Control
37/6	Mar	Regular Issue
37/7	Apr	Control Technology for Networked and Distributed Robotics
37/8	Apr	Regular Issue
37/9	May	World Models and Predictive Coding in Robotics
37/10	May	Regular Issue
37/11	Jun	Regular Issue
37/12	Jul	Regular Issue
37/13	Jul	Regular Issue
37/14	Jul	Regular Issue
37/15	Aug	Robotics Technology for Agriculture
37/16	Aug	Regular Issue
37/17	Sep	Robot and Human Interactive Communication 2023
37/18	Sep	Regular Issue
37/19	Oct	Regular Issue
37/20	Oct	Regular Issue
37/21	Nov	Multimodal Processing and Robotics for Dialogue Systems
37/22	Nov	Regular Issue
37/23	Dec	Regular Issue
37/24	Dec	Regular Issue

２．編集体制

2023 年度は，倉林大輔編集長の下，シニアエディター11 名を中心に，査読小委員会，国際編集委員，アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら，欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上，さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく．

３．欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014 年度から年間 24 号としたことで，一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られており，今後も採否決定までの期間 90 日を目標に出版を行っていく．Citation Index の評価（インパクトファクタ）において，2019 年度に 1.247, 2020 年度に 1.699, 2021 年度に 2.057 と着実に向上している．2021 年度には，Best Survey Paper Award を新設したことで，引用件数の多い質の良い Survey Paper も期待でき，インパクトファクタおよび国際的な認知度の更なる向上のため，一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い，また引用の多い論文数

件の Open Access 化等を実施する．さらに，国際貢献の意味も含め，海外の研究者をゲストエディタに含め国内外からの投稿数をさらに増大させていく．また，学会価値委員会等において完全 Open Access 化や有料化について，その是非も含めて継続して検討を進めていく．

４．国際化に向けての活動

Best Paper Award の授賞式の，国際会議 IROS での開催を目指しているが，2020 年，2021 年が On-line 開催になってしまったため，IROS が On-site で開催される際には，授賞式を実現したいと考えている．また IROS で国際編集委員会を開催し，国際的認知度を高めるよう努力する．また国際貢献のために，ロボット学会の外国人会員の増加，日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく．また，国際委員会の活動に協力し，他学会との協力体制強化，パンフレットの国際会議場などでの配布，AR 宣伝のためのポスターの制作と配布，ウェブの英語コンテンツ充実，等を実施する．

Ⅳ．調査・研究（継続事業 4）[担当：企画・広報理事]（定款第４条３号）

１．調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会，研究専門委員会による活動を行う．

（１）研究専門委員会

委員会名	委員長	発足	種別
ロボット性能評価工学研究専門委員会	佐藤徳孝	2023 年 1 月	I 種
介護ロボット研究専門委員会	柴田智広	2022 年 3 月	I 種
若手・学生のためのキャリアパス開拓研究専門委員会	槇田諭	2021 年 4 月	I 種
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020 年 4 月	I 種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅久	2020 年 4 月	I 種
遊びとロボット研究専門委員会	望山洋	2017 年 5 月	I 種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017 年 4 月	I 種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017 年 4 月	I 種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017 年 4 月	II 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014 年 8 月	II 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	I 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008 年 4 月	I 種
北海道ロボット技術研究専門委員会	田中孝之	2008 年 4 月	I 種
空間知能化研究専門委員会	李周浩	2007 年 1 月	II 種

（２）調査研究委員会

委員会名	委員長	発足
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020 年 1 月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見卓	2015 年 1 月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013 年 5 月

（3）技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015 年 4 月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013 年 10 月

（4）研究協議会

学術講演会併催で研究協議会を開催し、各研究専門委員会の活動報告を行う。

Ⅴ．表彰（継続事業 5）[担当：企画・広報理事]（定款第 4 条 4 号）

1．表彰

第 41 回学術講演会において，学会誌論文賞，Advanced Robotics Paper Awards (Best Paper, Excellent Paper)，実用化技術賞，優秀研究・技術賞，優秀講演賞，若手講演賞，研究奨励賞，ロボティクスシンポジア研究奨励賞，ロボティクスシンポジア優秀研究・技術賞，ロボット活用社会貢献賞および功労賞の授与を行う．さらに，ロボット学の研究を行い，学業成績が優秀な大学学部生，高等専門学校生に対して優秀学生賞の授与を行う．また，ＦＡ財団論文賞への候補論文の推薦など，学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる，外部団体からの各賞の推薦依頼やその他の表彰についても，積極的に対応していく．

Ⅵ．国際（継続事業 6）[担当：国際理事]（定款第 4 条 5 号）

1．学術講演会における国際セッション

第 41 回日本ロボット学会学術講演会（東北大学）において，国際セッションを組織する．発表者には，参加登録費を課すが，登壇資格は問わない．また，International Session Best Presentation Award を選定する．

2．国際会議関連

本会に係る下記国際会議の共催／協賛，運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う．

・RO-MAN2023　　日程：2023 年 8 月 23 日～8 月 31 日，会場：韓国，釜山

・IROS2023　　日程：2023 年 9 月 29 日～10 月 6 日，会場：アメリカ，デトロイト

RO-MAN2023 では，RSJ Pioneering Research Award in Robot and Human Interactive Communication のスポンサーとなる．

RO-MAN Steering Committee には，国際担当理事，事務局長が参加する．

IROS Steering Committee には，会長，国際担当理事，事務局長が参加する．

IROS2023 では Best Conference Paper Award のスポンサーとなる．

IROS2023 での RSJ 主催イベントの企画および実施方法について検討し，実施する．

3．その他

（1）日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施

・対アジア外交における戦略の立案（協調と競争のバランス付け）

・IROS，RO-MAN 等の国際会議での日本ロボット学会の広報

・英語による広報活動の展開（Web およびパンフレット）

・インド TRS との積極的な連携

（2）国際委員会の位置づけと活動の見直し

Ⅶ．学術講演会（その他事業 1）[担当：学術講演会理事]（定款第 4 条 1 号）

1．学術講演会・シンポジウム等

（1）第 41 回学術講演会

期日：2023 年 9 月 11 日(月)～14 日(木)

会場：宮城県仙台市　仙台国際センター展示棟

実行委員長：大野和則（東北大学）

副実行委員長：平田泰久（東北大学）

副実行委員長：田村雄介（東北大学）

プログラム委員長：石上玄也（慶応大学）

Ⅷ．講習会（その他事業 2）[担当：事業理事]（定款第 4 条 1 号）

（1）第 146 回「テーマ未定」

期日：2023 年 1 月頃

オーガナイザ：五十嵐 広希（東京大学）

（2）「テーマ未定」

期日：未定　　オーガナイザ：未定

（3）「テーマ未定」

期日：未定　　オーガナイザ：未定

（4）「テーマ未定」

期日：未定　　オーガナイザ：未定

（5）「ロボットの作り方～移動ロボットの制御と ROS による動作計画実習～」

期日：2023 年 9 月（予定）

オーガナイザ：ラサミー ポチャラ（大阪工業大学），前田 貴信（佐世保工業高等専門学校）

（6）「テーマ未定」

期日：未定　　オーガナイザ：未定

（7）「テーマ未定」

期日：未定　　オーガナイザ：未定

（8）「テーマ未定」

期日：未定　　オーガナイザ：未定

2．共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う．

国内共催事業（予定を含む）：

（1）第 28 回ロボティクスシンポジア

期日：2023 年 3 月 15 日（水）～16 日（木）

会場：南紀白浜温泉（和歌山）

実行委員長：上田 悦子（大阪工業大学）

（2）ロボカップジャパンオープン 2023

期日：未定，開催地：未定

（3）知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2023

期日：未定，開催地：未定

（4）レスキューロボットコンテスト 2023

期日：未定，開催地：未定

IX．法人処理［担当：庶務理事］

1．第 13 回定時総会

会　期：令和 5 年 3 月 22 日（予定）　会　場：全水道会館（予定：状況によりオンライン開催）

2．委員会活動

下記の委員会を開催する．

	委員会名	委員長 （1 月～3 月）	委員長 （3 月～12 月予定）
(1)	会誌編集委員会	前田 雄介	菅原 雄介
(2)	欧文誌委員会	山本 江	辻 俊明
(3)	事業計画委員会	槇田 諭	姜 山
(4)	国際委員会	中西 淳 / 田原 健二	山野辺 夏樹
(5)	研究協議会	橋本 浩一	次期副会長
(6)	学術講演会実行委員会	太田 順(40 回)	大野 和則（41 回）
(7)	表彰委員会	菅野 重樹	次期副会長
(8)	学会誌論文賞選考小委員会	橋本 浩一	次期副会長
(9)	Advanced Robotics Paper Awards 選考小委員会	菅野 重樹	次期副会長
(10)	実用化技術賞選考小委員会	菅野 重樹	次期副会長
(11)	研究奨励賞選考小委員会	橋本 浩一	次期副会長
(12)	功労賞選考小委員会	菅野 重樹	次期副会長
(13)	ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	橋本 浩一	次期副会長
(14)	学術講演会関連賞選考小委員会	橋本 浩一	次期副会長
(15)	ロボティクスシンポジア関連賞選考小委員会	橋本 浩一	次期副会長
(16)	外部表彰選考小委員会	菅野 重樹	次期副会長
(17)	体制整備委員会	村上 弘記	次期会長
(18)	アドバイザリーボード	村上 弘記	次期会長
(19)	コンプライアンス委員会	村上 弘記	次期会長
(20)	情報システム管理委員会	伊藤 真平	小野 幸彦
(21)	学術講演会運営委員会	菅野 重樹	次期副会長
(22)	ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	小椋 優	香月 理絵
(23)	学会価値委員会	村上 弘記	次期会長

3．役員の選出

令和4年度の理事・監事を選出する．

4．フェロー，名誉会員の選任

フェロー，名誉会員の推薦を行い選任する．

5．学会の基盤強化

昨年に引き続き，理事会・各種委員会で，個人会員及び賛助会員の増大を目指し，各種改善施策を進める．昨年はCOVID-19により殆どの事業がオンライン化された中，そこで得た知見を活かし，オンサイトとのベストミックスを探りつつ事業の拡大に努める．

外部への働き掛けとして，産業貢献・異業種連携活動の他，広報活動全般の強化を図る．特にHP・学会誌等のコンテンツ強化を引き続き推進し，学会の知名度向上をはかる．また，非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動の継続，学生会員が会員継続したくなる価値の創出と，若年層への啓発活動も継続実施する．さらに，ジェンダーバランスの改善，女性会員の増員に向けた活動を強化する．

6．学会サービスの向上

学会価値委員会を中心に，学会ホームページのコンテンツの充実，情報サービスの拡大を，COVID-19をきっかけに変化した生活様式を考慮しつつ継続して推進し，会員サービスの質の向上を図ると共に，学会の社会的価値の向上をはかる．

7．規約等の制定・整備

体制整備委員会，コンプライアンス委員会にて，学会運営の効率化・適正化，学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を引き続き実施していく．

8．将来検討

広報活動のフィードバックを反映し，学会価値委員会等の活動により，本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む．

9．事務局運営

体制整備委員会の指導の下，中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する．

【報告資料 2】

令和５年度予算計画

収支予算書（損益ベース）　令和５年１月１日～令和５年１２月３１日 (公益事業)								
科目	実施事業等会計							
	継１ シンポジウム	継２ 学会誌	継３ 欧文誌	継４ 調査・研究	継５ 表彰	継６ 国際	共通	小計 (A)
Ⅰ一般正味財産増減の部								
１．経常増減の部								
（１）経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金								
学生会員受取入会金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	14,740,000	2,544,000	0	0	0	0	17,284,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		7,660,000						7,660,000
会誌広告料事業収益		5,680,000						5,680,000
会誌頒布事業収益		1,400,000						1,400,000
編集料事業収益			2,544,000					2,544,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	14,740,000	2,544,000	0	0	0	0	17,284,000
（２）経常費用								
事業費	270,000	25,759,670	5,477,000	1,123,494	6,517,380	3,504,000	0	42,651,544
給料手当		5,573,370			4,292,580			9,865,950
臨時雇賃金	20,000	24,000						44,000
退職給付費用		466,225			329,100			795,325
福利厚生費		1,147,075			809,700			1,956,775
旅費交通費	50,000	500,000	51,000	1,000	1,000	1,200,000		1,803,000
通信運搬費	41,000	3,450,000	22,000	89,000	35,000	24,000		3,661,000
消耗什器備品費				198,000				198,000
消耗品費	100,000	113,000	17,000		72,000			302,000
印刷製本費		11,400,000		115,000				11,515,000
賃借料	25,000							25,000
諸謝金	30,000	10,000		386,494				426,494
租税公課		518,000	8,000					526,000
支払負担金			2,055,000					2,055,000
委託費		2,548,000	3,324,000	300,000				6,172,000
雑費	4,000	10,000		34,000	978,000	2,280,000		3,306,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								
消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	270,000	25,759,670	5,477,000	1,123,494	6,517,380	3,504,000	0	42,651,544
評価損益等調整前当期経常増減額	-270,000	-11,019,670	-2,933,000	-1,123,494	-6,517,380	-3,504,000	0	-25,367,544
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-270,000	-11,019,670	-2,933,000	-1,123,494	-6,517,380	-3,504,000	0	-25,367,544
２．経常外増減の部								
（１）経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
（２）経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	270,000	11,019,670	2,933,000	1,123,494	6,517,380	3,504,000		25,367,544
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0

収支予算書（損益ベース）　令和５年１月１日～令和５年１２月３１日（その他事業）							
科目	その他会計				法人会計 （C）	内部取引消去	合計 (A)+(B)+(C)
	他１ 学術講演会	他２ 講習会	共通	小計 （B）			
Ⅰ一般正味財産増減の部							
１．経常増減の部							
（１）経常収益							
特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
特定資産受取利息							
受取入会金	**0**	**0**	**0**	**0**	**100,000**	**0**	**100,000**
正会員受取入会金					100,000		100,000
学生会員受取入会金							
受取会費	**0**	**0**	**0**	**0**	**40,205,000**	**0**	**40,205,000**
正会員受取会費					28,440,000		28,440,000
学生会員受取会費					2,005,000		2,005,000
賛助会員受取会費					9,760,000		9,760,000
事業収益	**30,600,000**	**5,565,000**	**0**	**36,165,000**	**0**	**0**	**53,449,000**
申込金事業収益	100,000			100,000			100,000
参加費事業収益	19,890,000			19,890,000			19,890,000
懇親会参加費事業収益	4,500,000			4,500,000			4,500,000
展示料事業収益	3,210,000			3,210,000			3,210,000
講演概要集広告料事業収益	2,900,000			2,900,000			2,900,000
セミナー参加費事業収益		5,565,000		5,565,000			5,565,000
会誌掲載料事業収益							7,660,000
会誌広告料事業収益							5,680,000
会誌頒布事業収益							1,400,000
編集料事業収益							2,544,000
受取補助金等	**1,500,000**	**0**	**0**	**1,500,000**	**0**	**0**	**1,500,000**
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金	1,500,000			1,500,000			1,500,000
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
受取寄付金							
雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**22,775,000**	**0**	**22,775,000**
受取利息					3,000		3,000
雑収益					22,772,000		22,772,000
	32,100,000	**5,565,000**	**0**	**37,665,000**	**63,080,000**	**0**	**118,029,000**
（２）経常費用							
事業費	**29,722,330**	**3,508,000**	**0**	**33,230,330**	**0**	**0**	**75,881,874**
給料手当	720,430			720,430			10,586,380
臨時雇賃金	3,700,000	120,000		3,820,000			3,864,000
退職給付費用	27,425			27,425			822,750
福利厚生費	67,475			67,475			2,024,250
旅費交通費	350,000	402,000		752,000			2,555,000
通信運搬費	406,000	194,000		600,000			4,261,000
消耗什器備品費							198,000
消耗品費	174,000	1,690,000		1,864,000			2,166,000
印刷製本費	3,500,000			3,500,000			15,015,000
賃借料	10,025,000	200,000		10,225,000			10,250,000
諸謝金	200,000	726,000		926,000			1,352,494
租税公課	417,000	108,000		525,000			1,051,000
支払負担金	5,600,000	24,000		5,624,000			7,679,000
委託費	4,512,000	16,000		4,528,000			10,700,000
雑費	23,000	28,000		51,000			3,357,000
管理費	**0**	**0**	**0**	**0**	**38,297,620**	**0**	**38,297,620**
給料手当					9,425,620		9,425,620
臨時雇賃金					4,478,000		4,478,000
退職給付費用					274,250		274,250
福利厚生費					1,174,750		1,174,750
会議費					173,000		173,000
旅費交通費					76,000		76,000
通信運搬費					900,000		900,000
消耗什器備品費					199,000		199,000
消耗品費					420,000		420,000
印刷製本費					461,000		461,000
光熱水料費					418,000		418,000
賃借料					7,507,000		7,507,000
保険料					12,000		12,000
支払手数料					1,721,000		1,721,000
諸会費					352,000		352,000
諸謝金					1,028,000		1,028,000
租税公課					56,000		56,000
委託費					4,800,000		4,800,000
					4,822,000		4,822,000
	29,722,330	**3,508,000**	**0**	**33,230,330**	**38,297,620**	**0**	**114,179,494**
評価損益等調整前当期経常増減額	**2,377,670**	**2,057,000**	**0**	**4,434,670**	**24,782,380**	**0**	**3,849,506**
評価損益等計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
当期経常増減額	**2,377,670**	**2,057,000**	**0**	**4,434,670**	**24,782,380**	**0**	**3,849,506**
２．経常外増減の部							
（１）経常外収益							
経常外収益計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
（２）経常外費用							
経常外費用計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
当期経常外増減額	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
他会計振替額	-2,377,670	-2,057,000		-4,434,670	-20,932,874		0
正味増減額	**0**	**0**	**0**	**0**	**3,849,506**	**0**	**3,849,506**
税					70,000		70,000
額	**0**	**0**	**0**	**0**	**3,779,506**	**0**	**3,779,506**

【第 3 号議案】

令和 5 年度役員の件

日本ロボット学会定款第 5 章，役員選任規程および役員候補推薦規程に従い，下表右列の 14 名を令和 5 年新役員として推挙したい．

		令和 5 年度役員	
任期	令和 3 年 3 月～令和 5 年 3 月	令和 4 年 3 月～令和 6 年 3 月	令和 5 年 3 月～令和 7 年 3 月
理事	村上 弘記		菅野 重樹
理事	菅野 重樹		久保田 哲也
理事	橋本 浩一		木口 量夫
理事	小椋 優	香月 理絵	岸 宏亮
理事	伊藤 真平	小野 幸彦	堀内 悠平
理事	遠藤 玄	星野 由紀子	宮田 なつき
理事	前田 雄介	菅原 雄介	田村 雄介
理事	山本 江	辻 俊明	谷口 忠大
理事	槇田 諭	姜 山	安孫子 聡子
理事		上田 悦子	入部 正継
理事	太田 順	大野 和則	河合 俊和
理事	中西 淳	山野辺 夏樹	松原 崇充
理事	田原 健二		上出 寛子
監事	浅田 稔	松野 文俊	村上 弘記

【第 4 号議案】

名誉会員推挙の件

日本ロボット学会，名誉会員選任規程第 2 項（会長経験者、および、その他、ロボットの学術または技術に関する権威者で，かつ本会に対し功績顕著な者）に従い，下記の 2 名を新しく名誉会員として推挙したい．

小平 紀生	1952 生	会員# 1026
広瀬 茂男	1947 生	会員# 56

なお，これに伴い，日本ロボット学会名誉会員は下記を含め 22 名（内 9 名故人）となる．

花房 秀郎（故人）	1923 生	会員# 73
藤井 澄二（故人）	1920 生	会員# 79
森 政弘	1927 生	会員# 25
米本 完二（故人）	1924 生	会員# 488
梅谷 陽二	1932 生	会員# 41
稲葉 清右衛門（故人）	1925 生	会員# 1070
長谷川 幸男（故人）	1927 生	会員# 71
有本 卓	1936 生	会員# 1078
江尻 正員	1937 生	会員# 77
三浦 宏文（故人）	1938 生	会員# 1023
木下 源一郎（故人）	1941 生	会員# 266
牧野 洋（故人）	1933 生	会員# 43
吉川 恒夫	1941 生	会員# 311
内山 隆（故人）	1947 生	会員# 506
金出 武雄	1945 生	会員# 292
原島 文雄	1940 生	会員# 2122
榊原 伸介	1948 生	会員# 4185
佐藤 知正	1948 生	会員# 100
福田 敏男	1948 生	会員# 1265
澤 俊裕	1949 生	会員#15452

【第５号議案】

定款改定の件

一般社団法人 日本ロボット学会 定款（案：抜粋）

2010年９月22日 制定
2012年９月18日 改定
2017年３月22日 改定
2023年３月22日 改定

第３章　会員

（法人の構成員）
第５条　本会に、次の会員を置く。
（１）正会員　本会の目的事業範囲において、専門の学識又は相当の経験を有する個人
（２）名誉会員　本会の目的事業範囲において、特別の功績があり、名誉会員選任規程に定める方法で総会で議決された者
（３）終身会員　本会の目的事業範囲において、終身会員認定規程に定める条件を満たした者
（４）学生会員　本会の目的事業範囲に関する課程を置く学校、大学、大学院において、その課程を履修している個人であり、学会誌の配布を必要とする者を学生会員Ａ、また、学会誌の配布を必要としない者を学生会員Ｂと呼称する
（５）賛助会員　本会の目的事業に賛同し、その事業を援助する個人又は団体
（６）準会員　上記（１）（２）（３）（４）（５）の各会員区分には該当しないものの、本会の目的事業に興味を有する個人あるいは団体
２　本会は、概ね正会員及び名誉会員５０人の中から１人の割合をもって選出される代議員をもって社員とする（端数の取扱いについては理事会で定める。）。
３　代議員を選出するため、正会員及び名誉会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な細則は理事会において定める。
４　代議員は、正会員及び名誉会員の中から選ばれることを要する。正会員及び名誉会員は、前項の代議員選挙に立候補することができる。
５　第３項の代議員選挙において、すべての正会員及び名誉会員は等しく代議員を選挙する権利を有する。理事又は理事会は、代議員を選出することはできない。
６　代議員の任期は、選任の~~４~~**２**年後に実施される代議員選挙終了の時までとし、第３項の代議員選挙は、~~２年に１度に~~**毎年度**実施することとする。ただし、代議員が総会決議取消しの訴え、解散の訴え、責任追及の訴え及び役員の解任の訴え（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第２６６条第１項、第２６８条、第２７８条、第２８４条）を提起している場合（法人法第２７８条第１項に規定する訴えの提起の請求をしている場合を含む。）には、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員は社員たる地位を失わない（当該代議員は、役員の選任及び解任（法人法第６３条及び第７０条）並びに定款変更（法人法第１４６条）についての議決権を有しないこととする）。
７　代議員が欠けた場合又は代議員の員数を欠くこととなるときに備えて補欠の代議員を選挙することができる。補欠の代議員の任期は、任期の満了前に退任した代議員の任期の満了する時までとする。
８　補欠の代議員を選挙する場合には、次に掲げる事項も併せて決定しなければならない。
（１）当該候補者が補欠の代議員である旨
（２）当該候補者を１人又は２人以上の特定の代議員の補欠の代議員として選任するときは、その旨及び当該特定

の代議員の氏名

（3）同一の代議員（２人以上の代議員の補欠として選任した場合にあっては、当該２人以上の代議員）につき２人以上の補欠の代議員を選任するときは、当該補欠の代議員相互間の優先順位

９　第７項の補欠の代議員の選任に係る決議が効力を有する期間は、選任後最初に実施される第６項の代議員選挙終了の時までとする。

１０　正会員及び名誉会員は、法人法に規定された次に掲げる社員の権利を、社員と同様に当法人に対して行使することができる。

（1）法人法第１４条第２項の権利（定款の閲覧等）

（2）法人法第３２条第２項の権利（社員名簿の閲覧等）

（3）法人法第５７条第４項の権利（総会の議事録の閲覧等）

（4）法人法第５０条第６項の権利（社員の代理権証明書面等の閲覧等）

（5）法人法第５１条第４項及び５２条第５項の権利（議決権行使書面の閲覧等）

（6）法人法第１２９条第３項の権利（計算書類等の閲覧等）

（7）法人法第２２９条第２項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）

（8）法人法第２４６条第３項、第２５０条第３項及び第２５６条第３項の権利（合併契約等の閲覧等）

１１　理事、監事は、その任務を怠ったときは、本会に対し、これによって生じた損害を賠償する責任を負い、法人法第１１２条の規定にかかわらず、この責任は、すべての正会員及び名誉会員の同意がなければ、免除することができない。

附　則

1　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第１２１条第１項において読み替えて準用する同法第１０６条第１項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。

2　本会の最初の会長は榊原伸介、副会長は川村貞夫及び佐久間一郎とする。

3　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第１２１条第１項において読み替えて準用する同法第１０６条第１項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第３２条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

4　この定款の施行後最初の代議員は、第５条と同じ方法で予め行う代議員選挙において最初の代議員として選出された者とする。

5　本定款は2012年9月 18日から改定実施する。

6　本定款は2017年3月22日に改定し、2018年1月 1日から実施する。

7　本定款は2023年3月22日に改定し、2023年3月 22日から実施する。
ただし、第5条6項に記載の代議員任期の改定に伴う代議員選任の取り扱いについては、別途定める暫定措置に基づくものとする。